

「事業名：福島県浜通り地区環境放射線研修会」

大阪大学 連携市町村：飯舘村、大熊町

現地拠点：相馬郡飯舘村草野小学校家庭科室

本事業のポイント・・・大阪大学を中心とした全国の大学の文系理系、学年、国籍の枠にとらわれない多様な背景を持った学生が浜通り地区を訪れる。そこでは、自らの手を動かし環境放射線を測定することで福島の実情を自身の体験を通じて理解し、さらに地元の方との意見交換によって震災時の様子やそこからの復興の過程を知り、放射線による直接的な影響から派生した人文社会的問題を認識する。また、学生間の議論の中から復興に対して自分たちが出来ることを考え見つける。この事業では教員も含めて、教え・教わりながら互いに切磋琢磨することによって、キャンパスの中だけで行われる従来型の学びでは実現できなかった分野横断型の総合的な学びを構築しており、すでに6年間の実績がある。

2022年度の活動内容・・・事前講義、現地実習および国際社会への発信を大きな活動内容とする。

事前講義・・・大阪大学で行われる座学

- 放射線の性質について
- 放射線はどこにあるか
- 放射線の人体影響について
- 社会におけるリスクの考え方
- 放射線の利用と社会的影響

現地実習・・・飯舘村と大熊町で行われる体験型学習

- 土壌や葉の採取および空間線量測定をする。
- 採取した土壌や葉中の放射能の定量をする。
- 原発事故現場を視察し、事故の概要と現状を知る。
- 帰還困難区域を視察し、震災の爪痕を知る。
- 地元の方々との交流から、文化や暮らしの現状を知る。
- 学生間で議論をし、自らが何をできるのかを考える。

国際社会へ発信・・・研修会を通じて学んだ事柄や研究データについて、積極的に国内のみならず海外にも発信する。また、自分自身にどのような影響があったかを講義や学生シンポジウムなどで発信する。

人材育成目標・・・複合的要因をもつ大規模災害などから復興を目指すためには、科学的に分析し理解するだけでは十分ではない。複雑に絡み合う要因を紐解く想像力と、新しい答えや考え方を生み出す創造力を働かせることが重要である。我々の事業における目標とは「豊かな想像力を持ち、能動的に創造力を働かせ、問題解決に当たることができる」人材の育成である。取組みによって得られる成果・・・上述する人材を育成し続けることは、直接的間接的を問わず福島に対する問題意識を持つ人材が世に輩出し続けることになり、将来的に福島の実展的復興に資する人材を涵養していく事になる。

実施体制・・・本事業目標を成就するために、多種多様な大学や機関との連携が不可欠である。そこで、右図に示す体制を構築した。

